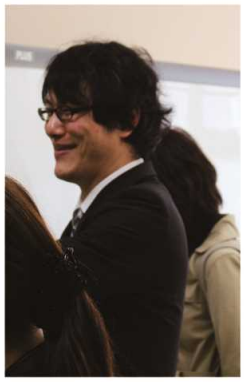
CERADES News

May　2014

京都産業大学　教育支援研究開発センターニュース

VOL．2

～「対話」から発見する支援の形～



センター長就任のご挨拶

京都産業大学
学長補佐・教育支援研究開発センター長
佐藤　賢一

セラデスニュース第２号をここにお届けいたします。

学生達にとって大学は、身のまわりや専攻している学問分野に存在する「わからないこと」に向き合い、そして新たに「わからないこと」を見つけるための場所ではないかと考えています。「わからないこと」との向き合いは難しくつらいものですが、これを耐えてしっかり取り組む心・技・体をつくることもまた大事です。

教育支援研究開発センターは学内各部署と連携して、教職員や学生が経験と知恵、そして日頃の思いなどを広く交換する場をつくることで京都産業大学での学びがより豊かなものになるようにこれからも活動します。今後もよろしくお願いいたします。

Contents

◆研修会報告
・今、大学が求められていること
　―障害者差別解消法施行を見据えて
・殿岡先生の講演を聞いて

◆ふりかえりシートから見る参加者の「気づき」
・授業のユニバーサルデザインへの気づき
・大学での学びについての視線

◆どうやって作る？！誰もがわかりやすい授業
～参加者 Q&A より～

◆障がい学生支援に関するＦＤ/ＳＤの取組
・京都産業大学におけるこれまでの取組
・平成２６年度の研修会のご案内
　第２回全学 FD/SD 研修会
　「ユニバーサルデザインの講義
　　―すべての学生に受けやすい講義の形とは―」

◆教育支援研究開発センターの主催研修会・年間予定

セラデス CERADES は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

今、大学が求められていること
―障害者差別解消法施行を見据えて

２月 19 日（水）、教育支援研究開発センター、ボランティアセンター、学生相談室による共催で、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（通称：障害者差別解消法）の施行を見据えて、とりわけ障害のある学生への「合理的配慮」のあり方の検討に向けた教職員の意識形成を行うことを目的とし、第 3 回全学 FD/SD 研修会を開催しました。今回は、学外公開型研修会とし、遠方から障がい学生支援に携わる大学教職員の他、留学生や盲学校の生徒等も参加し、学内外あわせて 108 名の参加がありました。

第 1 部の講演では、文部科学省の「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」の委員である全国障害学生支援センター代表の殿岡　翼氏を講師にお迎えしました。「障害者差別解消法」の施行を見据えて高等教育機関が取り組むべき課題について、京都産業大学における障がい学生支援の現状を踏まえながらお話しいただきました。

第２部では、「障がい学生自らが語る『学生生活』」と題した公開座談会を行い、本学で学ぶ障害のある学生３名より、「通学・授業・課外活動・キャンパス等学生生活全般に関すること」や「高校までとの違い」、「卒業後の展望」について、日々考えていることや直面している課題、大学に求める支援等について率直に語ってもらいました。

殿岡先生の講演を聞いて

障がい学生の受入れをしている大学の支援体制を把握するため、殿岡先生は全国の大学の状況調査をしておられます。受入れ「未定」とする大学も多いなかで、本学は障がい学生に対し、障害の種類別に応じた手厚い配慮していると評価してくださいました。具体的には、入学試験で視覚障がい者に対して別室受験や拡大文字の使用が認められたり、定期試験で試験時間の延長が認められている事例が紹介されました。

障がい者支援に関する社会の動向としては、2016 年に「障害者差別解消法」が適用されるに伴い、私立大学の場合は「合理的配慮の不提供の禁止」が努力義務となります。今後は、障がい学生が就学を断念することがないよう機会を確保したり、入学前・後の支援内容やバリアフリーの状況を情報公開する必要があります。殿岡先生は、何が「合理的配慮」であり、「どのような配慮が必要か」を明らかにすることは難しいけれども、どのような配慮が必要かを決めていく過程を積み重ねていくことが、合理的配慮を豊かにするのではないかとのお考えを示されました。

殿岡先生のお言葉で印象的だったのは、「人が生きるということは、何かを学びながら生きているということ。国が、人が学ぶことを制約すれば、それは生きることを制約することと同じだ」ということです。大学が障がい学生に開かれることを目指すと同時に、障がいのない人を中心に構成されている大学の現状打開も含めて、すべての人が自由に生きられる社会づくりを目指していく必要性を考えさせられました。

ふりかえりシートに見る参加者の「気づき」

セミナー終了後に実施した「ふりかえりシート」には、この研修会の第二部の公開座談会に触れ、本学で学ぶ障がいのある学生の方々の話や、殿岡先生のコメントから参加者が得た様々な「気づき」が書き留められていました。ここでは第二部での話題と、「ふりかえりシート」に記述された参加者の「気づき」の一部を紹介します。

●必要とする支援にはどのようなものがありますか?（佐藤センター長）

聴覚に障害があることから、授業で DVD を使われる場合は、パソコンテイクが追いつかないときがあるので、事前に先生からボランティアセンターに DVD を渡してテキストの準備をしていただくようにお願いしています。授業では、レジュメ、スライド、黒板を使って説明してもらえると分かりやすいです。でもこれは、障がい学生だけでなく、すべての学生にも同じことが言えるのではないかと思います。それと、なるべく「これ」「あれ」「それ」等、抽象的な指示語を使用しないで説明してほしいです。（法学部３年生　辻悠佳さん）

≪授業のユニバーサルデザインについての気づき≫

- 授業に視覚情報を増やすなど、どんな学生にも分かりやすい授業をしなければならないと改めて感じた。（本学教員）
- 障害のある方に対する配慮は、すべての学生へのわかりやすさ、過ごしやすさに通じる。障害のある方だけにとどまらない。（本学職員）

●卒業後の展望につながる大学の支援にはどのようなものが考えられるでしょうか？（佐藤センター長）

学生の卒業が決まったときに、卒業報告会を是非もっていただきたい。その人がどうやって、卒論を書くまでに至ったのか。どのように勉強して、卒業に至ったのか。これは実はあまり知られていません。難しいかもしれませんが、共有することが重要です。そうすれば、次に学ぼうとする人たちが考えるきっかけになる。そのまま卒業してしまうとそれが埋もれてしまう。障害のある学生が大学に入ったのは、支援を受けるためではありません。やりたいことをやるためです。進路を大事にしてほしい。できあがったツールを使った方が、その手法が豊かに変わる。その流れを作ってほしいと思います。
学生自身にとっても、どのように勉強したのかを振り返って自分で認識し、自分への合理的配慮を見つめることが、企業に入ったときに、自分でなにかを起こす、進学する、またどこにいくにしても、大きな力になります。（殿岡先生）

≪大学での学びについての視線≫

- 障がい学生が自身の振り返りや、障がいのある後輩学生へのメッセージを伝える場として、報告会をしてはどうかという殿岡先生の提案に共感した。是非毎年行ってほしい。（本学職員）
- 入学し、卒業するまで、すべての学生に、「個人レベル」ではなく「組織」として、教育を、いかに担保し、平等に機会を提供するかが問題となると感じた。（本学職員）

どうやって作る！？誰でも参加できる授業

参加者の方からよせられた様々な質問に、研修会後、本学ボランティアセンター職員・ご講演くださった殿岡先生・登壇学生さんから、それぞれ回答をいただきました。誰もが参加しやすい授業づくりを考えるヒントになれば幸いです。

Q1 授業内でのコミュニケーションのなかで、大変だと思ったことはありませんか。また、授業や大学側の障がい学生対応について求めることや理解してほしいことはありますか。

辻さん（聴覚）：PCT（*パソコンテイク）で授業を受けているので、集中しないとついていけないです。そんな時には他の受講生が雑談をしていると不愉快に思いますし、テイカーさんが先生の話を聞き取れなくなるので困ります。

寺西さん（視覚）：大人数と話す場合、その場に誰がいるのかや、いつ自分に話が振られているのかがわかりにくいです。

Q2 障害をもつ者として、教員に求める支援で最も重要なことは何でしょうか。

佐藤さん（発達）：講義においてのやり方をなるべく視覚でわかるような配慮をしてくれることです。

寺西さん（視覚）：障害にかかわらず、同じ授業を聞いて皆が同じ理解ができるような授業をしてくれることです。

ボランティアセンター職員：参加型授業やコミュニケーションが重視される授業においては、学生と教員、または学生同士がコミュニケーションをとりながら授業が進行していきますので、支援を最大限に活かす「周囲の配慮」、つまり、一緒に学んでいる学生の配慮も必要になってきます。

殿岡先生：障がい学生についてのアクティブ・ラーニングのマニュアルは、あまり見たことがありません。今後の開発分野のひとつではないでしょうか。まずは障がい学生への情報保障を基本に、ディスカッションについていけない時の「イエローカード」の提示などを検討してみてはいかがでしょうか。

Q3 逆にちょっとありがた迷惑なサポートはありますか。

辻さん（聴覚）：初回授業のときに、サポートをつけて授業を受けることを先生にお話しますが、本来であれば障がいをもつ学生が自身で話さなければならないのを、サポーターや友達が代わりにすべて話すというのがちょっと・・・と思います。また、どんな話をしたのかわからないのが問題です。

Q4 学内定期試験について、改善してほしいと思った、あるいは困ったことはありましたか。

辻さん（聴覚）：特にありません。聴覚障害の場合、筆記で問題訂正があった場合には、先生が黒板に書いてくれたり、紙に書いて見せてくれたりしています。試験では事前に席の場所や試験方法の配慮を伝えていますので、心配ないです。

佐藤さん（発達）：時間延長の配慮をしてもらっているので特に困ったことはないです。

寺西さん（視覚）：特別措置として筆記試験をレポートに変更されることがありますが、極力他の学生と同じように試験を受けたいです。

ボランティアセンター職員：成果評価基準については、「通常の試験とレポート提出による場合には、評価基準に差を設けるべきか」というご質問が先生方からありましたが、障がい学生への支援・配慮の基本的な考え方の一つに「同じスタートラインに立つことを助ける」という考え方があります。これは「障害の特性上、できないことや苦手なことに対して適切な配慮を行う」ということです。「障害があるから成績を甘くつける」ことは、単位認定の観点からも問題だと思われます。

「本人が授業内容をきちんと理解できているかどうか」が単位認定においては重要だと思いますので、それが障害の特性上、通常の試験方法では困難が発生する場合は、やはり適切な配慮が必要になると思われます。もちろん、適切な配慮を行ったうえで、成績が伴わなかった場合には、単位不認定になることはやむをえないと思います。

「障がい学生に対して何ができるのか」「どこまで支援が必要であるのか」という問いに対して、たった一つの正解はありません。障がい学生に限らず、学生一人ひとりが参加しやすい授業づくりへの配慮とは何か、授業を構成する全員で考えを深めていくことが重要ではないでしょうか。今後、京都産業大学教育支援研究開発センターでは、参加型授業やアクティブ・ラーニングの具体的な運営について対話の機会を設け、誰もが参加できるユニバーサルな授業を追求していこうと考えています。今回、紙面の都合上、掲載しきれなかったご質問・ご意見は、ホームページ上でご紹介していきます。（URL：http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/）

障がい学生支援に関するFD/SD

教育支援研究開発センターでは、教育の質の向上を目指して、「対話」をベースにした全学的な FD/SD 活動を展開しています。なかでも近年重点課題として継続して取り組んでいるのが、障がい学生支援に関する FD/SD です。平成 25 年度の第 3 回 FD/SD 研修会では障がい学生を支援する教員・職員、そして支援を受ける学生の声など、現場の声を学内外で共有することを目的に開催しました。

平成 26 年度の第 2 回全学 FD/SD 研修会は、支援を受ける学生側からの企画提案に基づき、教職員を対象に講義での対応方法や、必要な配慮とはどういったものか等実務的な疑問を解消することを目的としたフォーラムを開催します。

◆平成 24 年度第 1 回全学 FD/SD 研修会（平成 24 年 5 月）

『発達障害のある大学生の支援について』

・高橋 知音 氏（信州大学教育学部教授）による講演

～発達障害の基礎知識、授業や成績評価方法など具体的な支援について～

『障がい学生を組織的に支えるために～教員・職員・学生のネットワーク形成を目指して』

・本学聴覚障がい学生と教職員によるパネルディスカッション

「教室で学生は・・・」

◆平成 25 年度第 1 回全学 FD/SD 研修会（平成 25 年 9 月）

『京都産業大学における障がい学生支援の現状と課題』

・本学ボランティアセンター職員による講演

～「発達障害者支援法」をはじめとする法整備状況と本学の受入れ状況について～

・ワークセッション（現場教職員による事例報告と具体的な支援の工夫と課題）

「支援する教職員は・・・」

◆平成 25 年度第 3 回全学 FD/SD 研修会（平成 26 年 2 月）

『今、大学が求められていること――障害者差別解消法施行を見据えて 』

・殿岡 翼 氏（全国障害学生支援センター代表）による公開講演

・本学で学ぶ障害のある学生たちを交えての公開座談会

これから求められる「合理的配慮」とは？

◆平成 26 年度第 2 回全学 FD/SD 研修会（予定） New!!

『ユニバーサルデザインの講義

―すべての学生に受けやすい講義の形とは―』

・障がい学生による解説付き模擬授業（文系 2 講義・理系 1 講義各 30 分）

・グループディスカッション

・実践教員による報告と質疑応答

日時/場所：平成 26 年 5 月 28 日（水）13：15～17：00/京都産業大学・雄飛館ラーニングコモンズ

お問い合わせは学長室（教育支援研究開発担当）下記アドレスへメールにてご連絡ください。

Mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

また近日中に本学 HP にて実施要項を掲載予定ですので、そちらからもご確認ください。

「誰もがわかりやすい授業」とは？

開催済みの研修会についての詳細は HP にアップしています。

■平成 26 年度　教育支援研究開発センター主催研修会・年間予定

第 1 回全学 FDSD 研修会	5 月	「英語によるアカデミックライティングの手法に関する FD/SD」
第 2 回全学 FDSD 研修会	5 月	「ユニバーサルデザインの講義　―すべての学生に受けやすい講義の形とは―」
第 3 回～7 回全学 FDSD 研修会	6 月以後順次	予定テーマ「授業アンケート活用法」「シリーズ・アクティブラーニング」「教育の質保証：シラバス・成績評価と授業設計」「京産共創プロジェクト」

■新任教員研修会

第 1 回新任教員研修会	4 月	「京都産業大学の教育の特色」「先輩若手教員からみた本学学生の特徴」「本学における授業の運営方法」ミニトークとグループディスカッション
第 2 回新任教員研修会	6 月	「教員―学生間の授業に関する対話シート」体験談 「アンケートの特徴と活用方法」

■授業アンケート（2 種類）

教員―学生間の対話シート	春学期・秋学期	※第 6 週目までに実施
学習成果実感調査	春学期・秋学期	※第 14～15 週目に実施

■その他（学部による公開授業＆ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ 高等教育関連学会等への参加・発表　学生 FD スタッフの支援　高等教育に関するﾚﾌｧﾚﾝｽ　等）

京都産業大学
学生 FD スタッフ燦
マスコットキャラクター
SUN ちゃん

京都産業大学ボランティアセンターでは「障害のある学生の支援」と「ボランティア活動の支援」を行っています。
障害のある学生の支援においては、「障がい者に開かれた大学環境の整備」を活動の目標として、サポート学生、サポート利用学生、スタッフが、共に明るく楽しくをモットーにサポートにあたっています。

京都産業大学
ボランティアセンターマスコットキャラクター　ボラカニ

『CERADES　News』Vol.2　　平成 26 年 5 月発行
編集/発行　京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
Tel：(075)705-1729
Email：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp
http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/